

## 徳島県総合計画審議会 会議録

I 日時 平成19年2月7日(水) 14:00~16:00

II 会場 県庁10階 大会議室

### III 出席者

【委員】40名中 26名出席

粟飯原一平委員, 阿川利量委員, 伊勢悦子委員, 今田恵津子委員,  
神田真奈美委員, 児島勝委員, 近藤光男委員, 近藤安子委員, 敷島のり子委員,  
齒朶山加代委員, 曾良寛武委員, 中央子委員, 灘和重委員, 野口優子委員,  
浜口伸一委員, 原田幸委員, 坂東忠之委員, 広野みゆき委員, 松崎美穂子委員,  
三谷昭夫委員, 三牧千鶴子委員, 森田陽子委員, 森長沙耶委員,  
藪田ひとみ委員, 山下勝重委員, 山田真裕委員

【県】知事, 企画総務部長, 各部局次長, 総合政策局長 ほか

### IV 会議次第

1 開会

2 議題

(1) 会長・副会長の選任について

(2) 新行動計画について

(長期ビジョン編(素案), 行動計画編 基本目標(概要案))

(3) その他

#### 《配付資料》

資料 ①「長期ビジョン編(素案)」

資料 ②「行動計画編 基本目標(概要案)」

資料 ③「とくしまの目指すべき姿への提言」

## V 議事録

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 会長・副会長の選任について

委員の互選により、近藤光男委員を会長に、後藤修三委員と中央子委員をそれぞれ副会長に選任した。

#### (2) あいさつ 近藤会長と飯泉知事からあいさつ

#### (3) 新行動計画について

#### (3) その他

### 4 意見交換

#### (近藤会長)

ただ今、事務局から、審議スケジュール、新行動計画についての説明がありました。

事務局の説明にもあったように、今回は、今年度中に取りまとめる予定で、私の方で若干強引にまとめを行いました。今回はそれを反映した素案を示していただいております。今日はこれを土台に、皆様からのご意見、ご質問をいただきたいと思っております。

その後、4月下旬に、ビジョン編は案として、行動計画編は概要案として、パブリックコメントをいただく原案を作り上げることになっております。パブリックコメントの後で、当審議会として最終的な取りまとめを行う予定ですので、今日は比較的自由にご意見をいただけるという位置づけです。

それでは、ただ今の説明につきまして、どなたからでも結構です。ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

#### (委員)

資料1「長期ビジョン」の35ページ、環境のところの「将来世代に引き継ぐ豊かな自然」の記述について、この中には森林やサンゴなどの海洋まで、いろいろと書かれていますが、海岸付近にも少し目を向けて欲しいと思っております。

例えば、吉野川河口は国際的にもシギ・チドリなどの渡り鳥が渡来する重要な場所ということで、1996年にはラムサール条約の東アジア、オーストラリア地域におけるシギ・チドリ類に関するネットワークに、全国で初めて徳島県が参加しております。こうした重要な場所であるために、県外から野鳥などを見に来た人々は、吉野川河口の景色は素晴らしい、こんなにきれいな場所があるのが羨ましいと口々におっしゃいます。

また、干潟には、たくさんの貝やゴカイなどの底生生物が棲んでおり、それが水質を浄化し海をきれいにしています。干潟は「命のゆりかご」とも呼ばれており、魚など水産資源の子どもが育つ場所、ワカメや海苔などが生産できる重要な場所でもあります。このため、こういう場所を将来に引き継ぐことも加えていただきたいと思います。

また、その横の沖洲海浜につきましては、部分埋め立て方式となり一部水面を残していただけることになりましたが、ここは、今現在も一番生物の多いピオトープといえる場所です。非常に多くの稀少種や底生生物が高い密度で棲んでいます。新町川から流れてきた汚れた水は、ここできれいに浄化されて海へと流れており、こういう場所をつぶしてしま

うと、海が次第に汚れ、赤潮も発生し、生物、水産資源も少なくなってしまう。

一時期、瀬戸内海で浅瀬が埋め立てられました。当時は、埋め立て面積が増えれば、漁獲量が減っていくという関係がみられました。浅い海を埋め立てるということは、後世に大きな負の遺産を残していくのだと思います。ですから、こういう所をできるだけ残し、そこでは子どもたちが遊べ、潮干狩りができるということで、山のブナ林とか海のサンゴ礁だけでなく、干潟を特に大切に、潤いのある徳島にさせていただきたいと思います。

(近藤会長)

干潟のような自然環境は、ますます重要になってくると思います。徳島県の実験学習にも役立つ特別な所ですので、是非ご検討をお願いしたいと思います。

(委員)

資料2「新行動計画」については、全般によくまとまっていると思いますが、5ページの基本目標5「すだちの国とくしま」については、よく分かりません。

コンセプトの内容を読めば理解できますが、子育てや人づくりと、すだちというのがイコールでない気がします。徳島名産のスタチに引っ掛けたのでしょうか、このタイトルだけが中身とちょっと違うような違和感を覚えます。他の基本目標のタイトルのように、分かりやすいのがいいと思います。

(近藤会長)

事務局で、タイトルを付けられた経緯やお考えがありましたら説明をお願いします。

(事務局)

一つは、現計画で「いやしの国とくしま」というのがありまして、この「いやし」の概念が広くて、もう少し教育、子育て、学習というものを共通につなぐ概念がないかと、「円卓会議」や「しゃべり場とくしま」などでいただいた意見も参考に考え、このタイトルにしたものです。

今後、更に考えていかななくてはいけない余地がありますが、今の所これが一番ふさわしいということで素案として出ささせていただきました。

(委員)

計画の中身は子育てとか人づくりであり、タイトルのすだちは「巣立ち」に引っ掛けているのですが、「巣立ち」ということと「育てる」というのはイコールではなく、そのところに私は違和感を感じます。

(近藤会長)

今のご意見のように、「行動計画編」の方は今日が議論のスタートですので、たくさんの意見をどんどんお願いします。

(委員)

今の意見にも少し重なりますが、言葉というのですべてを表すのはむずかしい。そこで、広告などではビジュアルやサウンド、匂いや雰囲気も含まれたりもします。徳島の方というのはよく言葉尻に追われたりしますが、都会の方というのは、イメージやビジュアルとかの訴求が必要な部分があります。

私は、県外出身で、大阪で長く仕事をした後に徳島に来ました。自然がとても豊富で空気がきれいということで、徳島の自然がすごく好きです。大阪や東京とかの都会に居ると、その素晴らしいイメージを忘れてしまいます。徳島に居ると素晴らしい自然を当たり前だと思い、その素晴らしさを忘れてしまい、都会と田舎のコミュニケーションがしづらくなる。その辺に、都会と田舎の感覚的ズレがあって、いろいろな問題が出てきたりします。

そこで一つ、私みたいに都会から来て働き、稼ぎは安くても何とか頑張っで楽しんで生きているスタイルがカッコいいと思われるような訴求を徳島県がされたら、こちらに移住する若い方も増えるのではないかと思います。

私みたいに良いと思ってこっちに来ている人は、なぜ来ているのか。それは言葉ではなくて、実際に現場で見てもらえば分かると思うのです。歩いたり、ランニングをしたり、それが普段の日常のこととして当たり前に行えるフィールドが徳島にはあるのですが、それが徳島県庁や鳴門市役所などの中に居てはなかなか分かりにくい。私はNPOでウォーキングやトレッキングをしたりしていますので、職員の方も是非、時間があれば何カ月かに1回でも構わないのでご参加いただければと思います。

それからもう一つは、ITに関してですが、1年ぐらい前、私があるお寺のホームページを担当していて、そこがドメインを取得し、お寺のホームページを新しくして内容も豊富になったので是非ご覧くださいということをして「宝物」というページに投稿したのですが、なかなかこれが反映されない。そこで、ご住職がしびれを切らせて飯泉知事にメールをすると返事が返ってきて、「即、対応します。」と。それに1年半ぐらいかかりました。

ITというのはそうでは困るのです。「WEB2.0」と資料には書いてありますが、「WEB2.0」というのは何ですかと担当者の人に聞きたいです。ブログは情報が豊富で、中には間違った情報もあり、県庁内ではセキュリティの関係でブログが閲覧できないとのことですが、何台かに1台はそういうものも閲覧できるようにしていただき、県民の方がいろいろと活動されている状況をご覧くださいたいと切に思います。

(近藤会長)

ありがとうございました。徳島の良いところを、言葉や文字だけでなく、イメージとして発信して、人に来てもらうというのはすごく良いことだと思います。これから、皆さんと一緒に考えなくてはいけない課題だと思います。

(委員)

私も県外から来ましたので感じるのですが、確かに徳島には豊かな自然があり、サンゴ礁などは沖縄にも勝るものがあります。しかし、その宣伝が下手だということをして、県外から来られた方に何度も聞きます。こんなにも財産があるのにどうしてPRができないの

か。徳島の人を自分発信するのが下手ではないかということも聞きます。そういう意味で、今おっしゃられたように、PRしていくことが徳島の存在感を示す意味でとても大切ではないかと思います。また、そういったPRをどこで行っていくのか、具体的な戦略をどうするのかということも大切だと思います。

もう一つは、先ほどもありましたが、「すだちの国」のキャッチフレーズは、徳島らしさを出そうと考えられたのでしょうか、私も、ちょっと中身と違うという気がします。昨日も厚生大臣の話もありましたが、子育ての支援というのは重要なことであり、ここでは安心して子どもを産み育てられるということを使うべきで、そういうキャッチフレーズにされたらどうかと思います。「すだち」という言葉を使いたいのであれば、経済とかを含めて、もう少し違うところで使われたらいいのではないかと思います。

それから全体を通して思うのですが、人権をどう確立させていくのかという立場で見たときに、ここにお接待の心という言葉が入っていますが、人とのつながりを大切にすることという点も重要です。

四国の中でも愛媛、香川、高知では、雨が降ってきた時に、傘を持ってなくてどうしようかと考えていると、「傘をお持ちですか？」と、傘がなければお貸ししますという言葉が掛けてくれます。県外の者だと知っているのかどうか分かりませんが、香川、高知、愛媛に行くと、知らない人でも声を掛けてもらえ、嬉しく感じます。気をつけて行ってらっしゃいとか、何の会があるのですかと聞いてくれます。そういう意味で、人と人をつなぐもの、そういうキャッチフレーズが欲しいと、これからはそういうことがとても大切になってくるという気がします。

子育ての面でも、全然知らない人が来れば、「離れなさい」という指導もされていますが、本当は、心をつないで話のできる人間関係が、実は子どもたちを守ることに繋がっていくのではないかと思います。人権の根底を考えた時に、人と人が安心してつながりあえる関係を作っていく視点、それが資料を見ても感じられず、そういう視点が必要ではないかという気がします。

(近藤会長)

「長期ビジョン編」の2ページには、21世紀は価値観の多様化と心を大切にすることが大きな課題となっており、それを反映した格好で書かれていますので、今の委員のご意見を考慮して、より深くいい計画にしていきたいと思います。

行動計画編にどういうふうに入れていくかは、これからの課題として考えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(委員)

私は「つるぎ町」に在住して、代々の木材関係の仕事を営みながら、建築士でもあるので建築会社を営み、徳島市内ではホームセンターの経理に携わっているということで、徳島市と「つるぎ町」を行ったり来たりという毎日の生活を送っています。

今回の長期ビジョンでは、昨年の円卓会議でも発言させていただいた木質バイオマスエネルギーについての意見を採り入れていただき、ありがたく思っています。

20年後という大きなテーマを考えると、都市部と違い、私の住む「つるぎ町」や県西

部は、先日も人口推計がでていましたが、壊滅的な人口減ということが予想されています。

こうした中、県西部は非常に公共工事の依存度が高い地域であり、公共工事に頼りきった経済システムが確立しているという感じがします。公共投資の削減ということで、その年々の公共投資に一喜一憂するような経済システム、これを将来のために何とか違うシステムに変えていくことを、官民ともにテーマとしてやっていくべきだということで、バイオマスについての提言をさせていただいたわけですが、これは早急に対策を行っていただきたいと思います。

話は変わりますが、先週末まで、中国福建省のアモイ市という経済特区に指定された地域に出張しておりました。石の産地として世界的に有名なアモイ市郊外に、石材の買い付けに行ったのですが、そこは四国ぐらゐの規模の産地に、日本向けの墓石やヨーロッパ向けの大理石を加工して輸出する3千数社を超える大石材会社と下請工場が群がっている一大石材拠点です。そこを見ますと、木が全然ないのです。石が豊富ということは、山をちょっと4、5m掘りますと御影石みたいな石材が出てくるという地形のために、当然、巨木が育たないんです。

そこには数回行っておまして、日本の間伐材の写真を持って行きますと、こんな良い木があるのなら価格さえ合えばどんどん頂戴となり、地域が変わればそんなに欲しいものなのかなと思います。徳島では間伐材が溢れていて、切り倒して捨てていると言いますと、とにかく欲しいということは何人もの方がおっしゃいます。今は中国との経済格差があり、価格面の難しさもありますが、宮崎県では間伐材を輸出しようという動きがあります。木材資源も、輸出商品として少しずつチャンネルが開けるよう、官民ともに政策展開していければと思います。

中国の石の産地の場合、身近にある資源を最大限に活用して一大産業にしているのを目の当たりにして、私の田舎に帰りますと、本当に木がたくさんあって、何でこれが使えないのかという素朴な疑問を抱きます。どうかこの辺を、徳島の魅力の一つとして、産業界で活用していただきたいと思います。世界的に資源獲得競争が活発になり、石炭燃料やガスもそうですが、木材も奪い合いになっている状況が多々あります。今までの日本は木材の輸入大国でしたが、そろそろこの豊富な森林資源に目を向ける時期がきているのではないかと切々と感じております。

主たる産業をいま一つ見出せない徳島の場合、将来、LEDなどの最先端の事業とあわせて、一次、二次産業が、木製品のみならず、木材を原料とした車のバイオ燃料などを生み出す化学工業へと変化を遂げられれば、これが公共投資に右往左往している人たちも取り掛かりやすい産業になるのではないかと思います。建設業界においては、介護事業に手を伸ばしたりといろいろな違うジャンルを考えてはいますが、なかなか人材がスッと流れていけない。そういう意味では、将来、公共投資が削減された場合の受け皿の産業として、是非、林業というものに特化した政策をお願いしたいと思います。

それからもう一つは、今までスギやヒノキは樹齢30年、40年で出荷され、それまでの若い木は邪魔物扱いでしたが、もう少し成長の早い樹種の研究も含めて、5年、10年ぐらゐの森林サイクルも考える必要があります。ヨーロッパではバイオマス原料として、そういう樹種を導入して、どんどんと早いサイクルで回転させています。特に徳島県は森林面積率が75%ですから、まだまだ姿が全くない産業の話ですが、将来に向けてそういう

取り組みもお願いしたいと思います。

（近藤会長）

徳島県の一つの特徴である木材の利用については、資料1「長期ビジョン編」では、6ページの「産業」の中の「豊かな恵みを活かした森林工場」というところに、20年後を目指した計画がございます。

それから、「行動計画編」の2ページ「経済飛躍とくしま」には、農林水産業の記載がありますが、こちらについては、これからいろいろな施策の提案や具体的な話も出てくると思いますので、委員には、今後もご提言をいただきたいと思います。

（委員）

飯泉知事が当選されてからこれまで、まさしく「オンリーワン徳島」ということで徳島の個性を活かし、それぞれの分野で成果を上げられたことは大変評価をいたします。

そして今回は、20年先を目指した長期的な計画ということで、言葉的にはオンリーワンから、20年後はさらに進んでナンバーワンなのも分かりませんが、オンリーワンから次のステップへという視点を長期ビジョンに入れていただきたいと思っています。

せっかくの素晴らしい観光、自然をもっと知ってもらうため、それぞれの分野で開いたオンリーワンの花を全国、世界に発信していくという視点や、日本、世界に向けたナンバーワンを目指してさらに進化をする、そういった視点を、ネーミングだけでなく入れていただきたいと思います。

（近藤会長）

オンリーワンというのは、私は注目すべき施策の建て方だと思います。オンリーワンも、ちょっと見方を変えるとナンバーワンになります。オンリーワンが進化するとナンバーワンになりますから、我々の頑張り次第で、20年後は、気が付いたらナンバーワンになっていたというふうになりたいと思います。

（委員）

資料2の5ページに「スクールカウンセラーなどによる児童生徒の様々な悩みに対する支援体制」と書いてあります。私もスクールカウンセラーにお世話になったこともありますが、子どもたちが悩みを一番打ち明けやすいのは親や友だちであり、私の場合は泣いて帰ったりしたら近所の方が慰めてくれたりしました。ですから、学校における取り組みということでスクールカウンセラーがあるのだと思いますが、それよりは地域の人や親といった頼れる人たちが身近にいるということをもっと出したほうがいいと思います。

徳島は成長する上で環境がすごく豊かで、ある意味ゆとり教育になっていると思いますが、一方で地域の人との触れ合いが少なくなってきたと思います。昔はもっと近所の人たちが交差点に立って挨拶運動などをしていていたのですが、徳島市内では交通量が多くて危ないのに、交差点に親御さんたちが立っていなかったり、挨拶運動などが行われてないので、その活動がもっと全国的に広がればいいと思います。

(委員)

今、スクールカウンセラーの話がでましたが、中学校に配置されているスクールカウンセラーが月2回、本校に来てくれているのですが、そのスクールカウンセラーの先生が来られる時はいつも予約で満杯です。

本校は特別な取り組みとして、スクールカウンセラーや臨床心理士の卵である大学生や大学院生の方も関わってくださり、子どもの学力や行動、保護者の子育てに関する不安や希望というものを今年度1年間をかけて調査をしたりと、スクールカウンセラーを配置していただいてとてもありがたいです。

実際に、子どもの行動や学習の様子を見て保護者や教員へのアドバイス、現場の教員の相談や保護者のカウンセリングなどをしてもらっています。また、子どもの物の認識や言葉の発達具合、行動様式と成績との関係、描画と子どもの発達関係など、子どもに対してどういう支援をしてけばいいのかを調査しまとめています。

そうした意味で、昨日、県の予算の中に「スクールカウンセラーの配置」が大きく載っていて、ありがたいと思いました。現場の者とすれば、これまでの月2回ではちょっと足りないと思っていたので、配置していただけるのを心待ちにしています。

20年後になれば、今小学生の子どもは30歳ぐらいと、社会を作っていく年代です。今の子どもたちが大人になって大丈夫なのかと心配の面も多いので、今の保護者や子どもたちに対して、もっともっと手厚い支援や指導、環境の整備が必要だと思います。

長期のビジョンでは人づくりが一番だと思いますので、学校教育の環境整備、同時に地域社会での環境整備、子育ての環境整備を是非具体化して、ここを重点的にしていただくことで徳島はもっともっといい県になっていくのではないかと思います。

(近藤会長)

今の社会を見たとき、スクールカウンセラーの必要性はすごく高いと思います。私など小さい時にはガキ大将みたいに遊びまわっていて、スクールカウンセラーもいなくて、近所のおじいさん、おばあさんがそういう機能を果たしていたように思います。

ところが、そういう周りのケアが薄くなってきた時代では、専門的知識を持った人が必要となってきます。スクールカウンセラーがいて、子どもたちを取り巻く環境もよくしていくことは皆さんが望むところであり、是非進めていただきたいと思います。

(委員)

先ほどの「立哨があまり見受けられない」という委員の意見についてですが、私も子ども2人を育ててきた中で立哨当番があり、ずっと立哨をしてきました。

ところが、私も立哨で気付いたことは、立哨する場所が学校で決められていて、学校の近くの交差点では確かにあちこちで立っています。家を出たところにはありません。私の住んでいたところは学校までちょっと距離がありましたので、家を出た辺りにはだれもいないというのが現状でした。このように、自宅を出た周辺にはいなくても、学校の近くには立哨をされている方がおられると思いますので、つけ加えさせていただきます。

それともう一つ、障害者雇用について質問させていただきます。



1月の20日前後だったと思いますが、テレビで障害者雇用の実態調査で徳島県が全国最下位だという残念なニュースを耳にしました。その後、翌日の新聞報道もなく、そのニュースに触れられなかったので、ちょっと気になり私なりに調べてみました。

障害者雇用促進法で、障害者雇用が公的機関については2.1%から2.0%、民間については1.8%に決められているということですが、徳島県は残念ながら1.33%というニュースでした。

資料2の基本目標6では「障害の有無に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる社会づくり」とあり、この通りにいけば2025年にはすばらしい社会になるとと思いますが、現実を目を向けると、徳島県が最下位というのがすごく恥ずかしく、この件に関して県の方では、どのような努力をされているのかをお聞きしたいと思います。

(商工労働部)

障害者の雇用率が全国ワースト1という結果につきまして、私どもも厳しく受け止め、状況の分析、課題抽出に努め、さらなる雇用の場の確保に努めたいと思っています。

統計的なものは国の労働局が所管していますが、国の機関とも連携し、様々な企業誘致、新しい産業の創出等で幅広く雇用拡大に取り組む中で、障害者の雇用促進に努めたいと思っています。

(保健福祉部)

障害者の方が自立していくためには、就労の場の確保が重要であると認識しています。そこで、今年度と来年度にかけまして、障害者の長期計画等の福祉計画を市町村と県とで策定することにしています。

中でも、福祉的就労の場の確保という観点では、委員のご意見も参考にこれから十分に組み込んでいかなければならないと考えています。

(委員)

民間の雇用率は1.33%ということでしたが、公的機関では何%なのでしょう。

(商工労働部)

県の雇用率は2.18%、市町村は2.37%です。

(委員)

資料2の6ページ「みんなが主役とくしまの実現」の基本目標のコンセプトに、「国籍」という言葉を入れていただきたいと思っています。説明文の中では下から8行目に「国籍に関わりなく地域に暮らすみんなが…」という文章が出てくるので、コンセプトのどこかにも「国籍」を入れていただければと思います。

これを見て全体に感じたことは、これが全部実現したら徳島はすごいし、みんなが住みたくていいと思います。実現はなかなか難しい部分があるかもしれませんが、今回読んで一番驚き、すごいと思ったのが、「長期ビジョン素案」6ページの「東洋のハリウッド」という言葉で、本当に20年後にこう呼ばれるようになっているのかと。

こう書かれているのは、何かのビジョンがあつてのことだと思いますが、今のままでは急には実現できないように思います。行政だけに任せるのではなく県民一人ひとりが自分たちで良くしていくのはもちろんですが、県としては、具体的に5年後、10年後、15年後と、どういうふうにビジョンを実現していこうとしているのでしょうか。

特に、「東洋のハリウッド」ということに衝撃を受けたのですが、その実現に向けてのプランというのは、どう考えているのでしょうか。

(知事)

「東洋のハリウッド」は平成18年度以降に出始めた話で、実はその前にもう一つありまして、それは「東洋のヴェニス」です。

これは平成17年に全国知事会が徳島であり、その時に全国の知事がアスティとくしままで行くのに、普通はバスとか車で送るのですが、せっかく徳島に来たんだから徳島のいいところを体感していただこうと、県庁の前のケンチョピアから、NPO法人の皆さんにご協力をいただいて、船に乗ってお送りをしました。

お送りする間、「あそこに眉山が見えまして、さださんが3作目の小説を書いている、きっと映画化になる」とか話をしたところ、アスティとくしま前にいた報道機関が、全国知事会長の福岡県の麻生知事さんに、徳島の印象はどうですかと質問をしました。そこで「徳島の自然環境は素晴らしいよ。正に東洋のヴェニスですよ。」と彼が言ってくれたんです。それがきっかけです。

「東洋のハリウッド」はどうかというと、平成17年に、今の三好市、以前の池田町や山城町、東・西祖谷とかを舞台にした藤竜也さん主演の映画「村の写真集」が、カンヌ映画祭と同じ国際級の上海映画祭で、しかも当時は小泉さんが首相で、日中関係が非常に難しいときにも関わらず、日本映画として初めてグランプリを獲りました。当時、山田洋二監督の「学校」とか「学校2」や3が、部門賞を獲るのが関の山だったものが、いきなりグランプリを獲りました。

翌年、平成18年、松平健さんが主演のベートーベンの第九の日本初演、アジア初演をテーマとした映画「バルトの楽園」を、昨年6月から8月までで全国で110万人の皆さんにご覧いただきました。人道主義の映画ということで、日本赤十字社も全面的にバックアップをしてくれ、ドイツとの架け橋にもなりました。

今年はどうかというと、さださんの3作目「眉山」が、阿波踊りを中心に徳島市でロケが行われ、松島菜々子さんを主演に、5月12日から全国の東宝系で公開されます。

しかも、今年はあと2本、徳島を舞台にした映画が出てきます。

一つは、もう少し早く公開となりますが、阿南の椿泊を舞台に漁師さんをテーマとした「奇跡の海」。3作目は、もう少し後になりますが、東京のヒップホップの若い女の子と鳴門で阿波踊りに熱中する男の子との間のラブロマンス「アワダンス」です。

上海国際映画祭において邦画がなかなか獲れなかったグランプリを、徳島を舞台にした映画が獲る。しかも、昨年は、邦画の興行収入が洋画を抜いた空前の邦画ブームの中で、徳島でこれだけの映画が出ている。つまり、競争相手がたくさんいた中で出てくるということですので、まずは「日本のハリウッド」ぐらいからかなと思っていました。

ところで、昨年の11月には、徳島は近畿知事会に入っているものですから、私を入れ

て9人の知事みなさんに「バルトの楽園」を観てもらいました。今度は「眉山」の話をして、ついでに「日本のハリウッド徳島」を目指して行きたいと申しあげたら、ある知事が手を上げ「反対」と言われました。どこの人かと言いますと、「日本のハリウッド」と言えば太秦を抱える京都、京都府知事に反対されてしまいました。

それで、他の知事さんたちが「徳島さん、どうするんですか？」という顔で見るものですから、「分かりました。日本のハリウッドは太秦を抱える京都ですね。徳島は東洋のハリウッドを目指します。ご心配なく。」と話しました。これに対して、他の知事さんは、それは大げさでしようと言うこともなく、皆さんに納得してもらいました。このように、「日本のハリウッド」は京都だということですから、徳島が20年先を目指していくのは、当然、「東洋のハリウッド」であるべきではないかと思っています。

実際に施策としては、他の県でも、フィルムコミッションなどで映画、コマーシャル、ドラマの誘致を一生懸命やっていますが、徳島の進め方が、かなり感謝や評価もされているということで、この路線をさらに加速して、文化と観光という点も映画に被せていこうと。キャッチだけではなくて、映像も駆使したらどうかという委員さんのご意見もありましたが、まさしく映画もそうです。

また、11トントラックを改造した「新鮮なっ！とくしま号」も映像で売っています。食材を全国の皆さんに食べていただくだけでなく、42インチのプラズマディスプレイで、取れたてのみずみずしい映像を観ていただいています。さらに、調理をして実感して食べていただくことで、言葉だけではないPR、しかもこちらから出かけていくというパターンを、もっと取っていくべきじゃないかと思っています。

そういう経緯がありまして、決して夢物語ではありません。そのうちハリウッドを「西洋のとくしま」と言わせようかと、そのくらいまで考えております。

(委員)

資料2の「新行動計画」の基本目標については、分かりやすいにこしたことはないと思います。基本目標の1から7までのタイトルを読んだのですが、5番と6番が分かりにくかったです。

目標5については、既にお二人が言われましたが、これから徳島はスダチで何かするのか、スダチを基本目標にするほどすごい何かがあるのかと思ったのですが、これは「すだち」の取り違えということが読んで分かりました。

つぎに、6番のタイトルが他と違うというふうに感じました。他はタイトルを見れば何となく中身が分かりますし、「が」という助詞が入っていることもあり、「あれっ」と思って目を通しました。すると、どの基本目標を取ってみても、「主体的に参画」、「自立」、「主体性をもって」、「自ら進ん」、「県民が主役である」といったものが、全ての目標に流れている共通するキーワードのように感じました。

そう考えると、基本目標6の「みんなが主役」というのは、全てに共通するものと思え、今日のこの資料では、基本目標6の具体的な施策が若干分かりにくく、7つが並列にないように感じます。

(事務局)

今後、具体的な施策や主要事業が入ってくるともう少しはっきりするとは思いますが、今日の段階では、基本目標とその内容の文言だけで、少し分かりにくいかと思えます。

ただ、全体の流れとして、「自立」や「地域での主体的な活動」といった精神が、全編を通じて流れているのはおっしゃる通りです。現計画が「ユニバーサルとくしま」であり、障害の有無、年齢や国籍に関わらず全ての方々が住みやすい暮らしづくりをしていこうという大きな概念であり、広がりがすごいものです。そういう意味では、全てを流れるベースの部分という捉え方もできると思えます。事業が加われば、ターゲットが変わり、イメージがもう少し分かりやすくなるかとは思えます。

(委員)

資料1「長期ビジョン」の3ページには、「若い世代が喜びとゆとりを持って子どもを産み育てられる…」とあり、ここで「若い世代」としている根拠について、お聞きしたいと思えます。私たちが活動をしていて思ったことは、今は晩婚化が進み、高齢出産とか不妊治療が行われる中で、30代、40代の高齢出産をされたお母さんが非常に子育てに悩んでおり、子育てに悩んでいる方は、若い世代に限らないような気がします。

私たちが運営させてもらっている施設では、14歳や17歳で出産されたお母さんも来られますが、結構楽しんでおられます。いろんなことをあまり気にせずに、お人形感覚でだっこして来られたり、心配でお母さんが一緒に付いて来られたりしています。

子育てに深刻に悩んでいる方は、30代、40代の高齢出産者や、2人目が産めなくて不妊治療中で困っていたり、1人目の子育てで不安になり次が産めない方であったりと、これらの方も含めて「子育て世代」とするのか、もしくは「若い世代」には何かお考えがあってこの文言にして、一つの項目を設けようとしているのかお聞きしたいと思えます。

それと、5ページの「みんなで子育て協働支援社会」に、「企業は人材確保のため熱心に子育て支援」とありますが、人材確保だけのために子育て支援するのではなく、「子育て家庭の支援の重要性を感じて企業も子育てを支援」という文言が欲しいと思えます。

それから、34ページには「NPOは自己実現の場だけでなく、企業と同程度の賃金が得られ、働く場としても成り立っています。」とあり、こうなっていたら涙が出るほどうれしいです。

私たちNPOは、こういう子育て支援があったらいいなと思い、自分たちがお金が無くても、持ち出してでもやってきて15年になります。行政のように予算の範囲でできないものは仕方がないという考えではなく、NPOというのは自分たちが赤字になってもやってしまいます。それで残念ながら、指定管理者の審査において、私たちは、企画や運営力、集客力とかはいいポイントを上げられても、経営基盤というところでポイントを落とされてしまいます。シルバーの方が活動されていたNPOでは、やはり経営基盤がないということで、生きがいを感じている方たちの活動の場所がなくなり、皆さん、泣くほど悔しい思いをされたということも現実にあります。

私も活動を止めよう止めようと、他の仕事に就こうかと、いつも思っていますが、そんな時に、この資料を見て、20年後はこういうふうになっていたらいいなと、喜んで拝見

させていただきました。

(事務局)

「若い世代」については、特段深い意味で書いているのではなく、どこまでを若いとするのかもあり、委員ご指摘の通り「子育て世代」と置き換えた方が素直かと思います。

もう一つ、「企業の人材確保」についてですが、企業の目的は良い人材を確保することでしょうが、人口減少がこれだけ大きな社会問題になっている以上は、企業としての社会的役割も含めて記載する方が、おっしゃる通り適切だと思いますので、文章の表現方法について考えたいと思います。

(委員)

資料1の35ページ「環境首都とくしま」の食生活の広がりというところで「地産地消」というビジョンが書かれています。

これは非常に大事であると私も思っていますが、今ここに出ている水を見ると、これはアメリカ原産です。雇用人口が6千人もある県内最大の徳島県庁では、できれば県内の水か、近いところの水を採り入れた方が環境に良いので、20年先でなくても今からできるところは、少しずつ実践していただきたい思います。

アメリカのものでないとこの品質が得られないというのならばないと思いますが、そうでなければ大事なことでするのでお願いしたいと思います。

(委員)

今の水の話ですが、私は「湧きし水の湧くところ」という連載をしております。徳島は非常においしい水が湧いていて、この近くでも、眉山の周辺でいい水が湧いています。徳島県の方はあまり気がついていませんが、非常にクオリティが高く、大腸菌類とかの問題をクリアにすれば、非常にいいものです。

今、若い子たちで流行っているのが、ペットボトルを買うのではなくて自分のマイボトルにお茶を入れて持ち歩くことで、そうすればこのペットボトルはいらないのです。

私も、ウォーキングとかトレッキングとかのNPO活動をしていて思うのは、やる気の問題です。市民活動は、市民の人にやる気があっても、役所の方になれば達成できないし、両方の熱意がシナジー的に合わないとなんともいえないと思います。

障害者のお話とかを聞いていても、大きな問題は、現場で対応される職員の方の熱意と、活動を盛り立てる周囲の人の機運があまりにもなさ過ぎることです。

私も、去年からNPO活動をやってみて、そういうところがすごく気になります。私も仕事の中で、おいしい水が徳島にあることを表現していましたが、それでは追いつかないということでNPOにしました。みなさんも地域活動や子育て活動をされたりとかしていると思いますが、住民の方が何かに参加しようというムードを盛り立てる雰囲気、徳島県には足りないと思います。

(委員)

先ほど知事さんは「東洋のハリウッド」について、かなり熱意を持っておっしゃって

ましたが、知事さん同様、私も映画が大好きです。

しかしながら、徳島の映画館は寂れてしまって、徳島市内に1館もない状況です。そういうことも含めて、文化といいながら、市内や郡部で楽しめる施設が逆に減っていることはすごく残念なことだと思います。

先ほど委員から、資料2の「6 みんなが主役とくしまの実現」のところで少し違和感を感じ、これは全編に共通して流れることではないかというお話がありましたが、ここでは「人権」のことを言いたいのだろうと思います。1から7まで全てが「人権」に関わっている課題なので、6では座りが悪くてこういうふうになったのだろうと思いながら読ませていただきました。

20年後の徳島を描いたときに、全ての人たちの人権が守られるということ、そんな徳島ですよということが、本当は一番大きく入れるべきではないのかと思います。

人権は全てに渡ることであり、一番最初に誰もが安心して暮らせるような「人権確立の徳島を目指す」ということをキャッチフレーズに入れてもいいのではないかと。そのことを中心にして、様々な取り組みがあるというやり方もいいのではないかと。

人権というと何か特別な事ということで脇へ脇へと追いやられて、もっと言えば、人権は同和の問題だと考える人もいて、もっと隅へと追いやられる要因になっていると感じてなりません。20年後の徳島を考えた時に、誰もが安心して暮らせる、そんな人権が尊重される社会は、誰も反対することはないでしょう。ですから、人権を特別なところに扱わずに全面に押すほうが、今の日本全体を見ても人権を全面に押し出しているところはありませんので、そんなキャッチフレーズも考えて、その下にそれぞれの課題があるというふうにする方がいいのではないかと。

付け加えますと、先ほど委員さんも言われた障害者の雇用率が全国ワースト1で、それから生活の格差というのも徳島はワースト1だったと思います。持てる人の人権は守られるけれども、持てない人の人権は守られないという二極化した社会になってきているので、その最先端を徳島が行かないように、誰もの人権が守られるということを全面に押し出してもいいという気がします。

(事務局)

資料2「行動計画編」は、これから中期、短期で実際の施策や事業を加えていくものですので、今後、少しは性格付けがはっきりしてくるかだと思います。

「長期ビジョン」については、委員の意見を十分に反映させる形で、2ページの「目指すべき将来像」のトップに持ってきているのが「幸せを実感できる『幸齢社会とくしま』」ということで、みんなが幸せを追求できる社会を作ろうという強い思いで一番目に書き込んでいます。

直接的に人権とどう関係するのかは、施策とか事業の中に出てくると考えています。

(委員)

20年後というより、いま現在の不安について質問させていただきます。

皆さんの意見をお聞きして、徳島が元気になるということは、まちが元気、人が元気であることが一番大事であると漠然と感じています。人づくり、人と人とのつながり、そし

て交流の場を考えたときに、その拠点となる場所、共有できる場所というのが大事であり、必要であると思っています。

そこで、青少年の活動の拠点の一つである青少年センターの今後についてですが、青少年センターは、20年度、21年度に改築をされる予定で、その2年間は、閉館になるということです。現在の青少年センターは、青少年の集まりの場所、サークルや私たちの事務所のほか、一般の方もたくさん利用されています。

そういう場所がなくなってしまうと、どういうふうに替わりの施設とかを考えているのか、具体策が知りたいです。ある青年が県にメールで質問したようですが、漠然とした答えで具体的な返答がなかったようなので、是非この場でお聞きしたいと思います。

(県民環境部)

青少年センターについては、耐震化も行うということで、20年度、21年度と工事をし、22年4月のリニューアルオープンを考えています。

2年間の休館の間をどうするのかについては、プールは廃止という予定で、その他いろいろなハード事業はできないわけですが、講座とかについては、来年4月から閉館ですので、どういう形でどういう場所でどういう講座をやっていくのか、現在検討をしているところです。できるだけ早くお知らせできるようまとめたいと考えています。

(知事)

我々としては、委員がおっしゃったように青少年センターが拠点であることを十分に認識しています。ですので、今ある講座については、極力近くの施設を間借りする形で2年間、今行っているものに支障を来たさないようやっていこう。もちろん、今ある青少年センターをよりパワーアップをしよう。プールについてはいろんなところで出来ており、県としても障害者交流プラザに、ここは障害者の方だけでなく皆さんに使っていただける交流の場として、車椅子でも入れる温水プールを作っています。

老朽化が激しくモルタルが落ちたりする危険な部分を改修するとともに、例えばフットサルやロックコンサートの開催、いくら音を出しても大丈夫な阿波踊りの練習の場などとして、青少年や団体を運営されている皆さんのいろいろな意見をいただきながら、新しい機能を付加するために2年間はお休みしますが、その間、皆さんが支障を来たさないよう、近くの施設でこの機能を代替しようと考えています。

それからメールで具体的な答えがなかったということですが、私の所にメールが来れば、いま申し上げたようなことを書かせていただいたのですが、今日申し上げたことを仲間の皆さんにも広めていただければと思います。よろしくお願いします。

(委員)

今の漁業は、漁獲の減少、魚価の低迷、原油価格の高騰で経費がかかり、漁に行っても経費を引いたら何も残らないような非常に厳しい状況です。

ですから、私も10年ぐらい前から遊漁船を始めて、お客さんを積んで釣りをさせるという仕事も兼ねてしています。神戸とか関西圏からのお客さんが多いのですが、徳島というのは遠いイメージで思われています。先日も、神戸のお客さんに「船長、結構近い

ね。」と言われました。このお客さんは和歌山の潮岬の方へ行っていたのですが、そちらは高速道路を使っても5、6時間かかります。イメージ的には、大阪だと和歌山が近いような感じがしますが、徳島の方が地理的には恵まれていて、2時間台で県南の美波町に着きます。そういう、徳島は近いということをもっとPRして欲しいと思います。

恵まれた立地条件を活かして県南にお客さんが来ても、ただ自然を見るだけではつまらないので、そうした意味では、牟岐でやっているダイビングサービスは、あれはこんな近いところにこんなものがあったのかというすごい発見だと思います。県南に来て何か楽しいことができるサービスの提供や体験型観光のPRなどソフト面でも、もっとアイデアを出し合って考えていけばいいと思います。

不況の中に立たされている県南の漁業の打開策として、行政が第一次産業に従事している人を巻き込んで、そういったものを一緒にやっていけば、もっとすばらしいところ生まれれてくると思います。

(近藤会長)

これは地域づくりですので、行政と地元の人、産業をやっている方と一緒にやっていかないといけないと思います。将来ビジョンにも記載していますので、是非進めていきたいと思っています。ありがとうございました。

まだまだご意見をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、時間が参りましたので、この辺りで意見交換を終了したいと思います。

新行動計画については、今日の皆さんからの貴重なご意見を反映させて、事務局で新たな案を作っていただきたいと思います。

それから、まだ発言のある方、後で思い付いた方は、事務局の総合政策局に、郵便、FAX、メール、何でも結構ですので、ご連絡をいただきたいと思います。

本日は、本当に幅広いご意見をいただきありがとうございました。

それでは最後に、この審議会の運営につきまして、事務局から説明をお願いします。

## 5 事務局説明

①次回の審議会は、4月末の開催を予定し、「新行動計画（概要案）」についてご審議いただきたいと思います。

②今回の審議会の会議録については、次回の会議に諮り、公開する。

## 6 閉会